

# 学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川

## 至誠学園

平成22年3月15日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://www.shiseigakuen.org/> Email: info@shisei.org

発行 児童事業部 広報委員会



### 2010年お正月

至誠学園のモットー「明るく、直く、健やかに」のように2010年元旦は快晴。

屋上から富士山を眺め、新年式を行いました。

## 子どもたちの 明るい未来に向けて

平成21年度が終わるに当たり、この事業本部の総括をすると、法人（高齢・保育・児童の三事業本部）100周年を目指した記念事業、至誠学園を中心とした児童養護、障害施設のプログラムとして4年前に立ち上げられたセンチュリープロジェクトが、中長期計画の前期の完成を見ようとしているところです。多くの方々のお力添えに感謝いたします。

社会的な養護を必要とするわが国の状況は、少子化にともなう次世代育成および社会経済が二極化するなかでの子どもの貧困があります。また、あわせて児童虐待防止法が施行されて10年、悲惨な児童虐待は目に余るものがあり、至誠学園の児童事業本部でも新たな児童養護施設の設置を考えたところであります。

すでに「学園だより」でご報告してまいりましたが、皆様の多大なご支援により社会的養護としてのプロジェクトとしての「至誠大地の家」が完成しました。定員30人の0歳からの児童養護施設、その家族再統合に向けてのプログラム、また、地域の子育てに寄与するプログラム、加えてスタッフの研修など、大きく4つの機能を考えた建物がここに完成したところであります。まだ、外構工事、園庭整備等の事業が残されておりますが、ともかく完成いたしました。

このプロジェクトは、未来型子ども家庭福祉事業創設プロジェクトとして、平成18年至誠学園の中長期計画の策定により発足し、取り組んでまいりました。社会福祉法人を取り巻く環境の変化や、児童養護施設に求められる役割を検討したうえで、当園の取り組みや機能を明確にすることにあります。

中長期計画は、理念や使命を具体化し、時代を見据えて職員関係者が共有することにより、児童養護の蓄積されたノウハウを次世代につなげていくことがねらいです。さらに、先駆的施設として現場の実践を明らかにし、行政への提言なども視野に入れることなども当園の使命の一つとして考え、この計画を進めてまいりました。

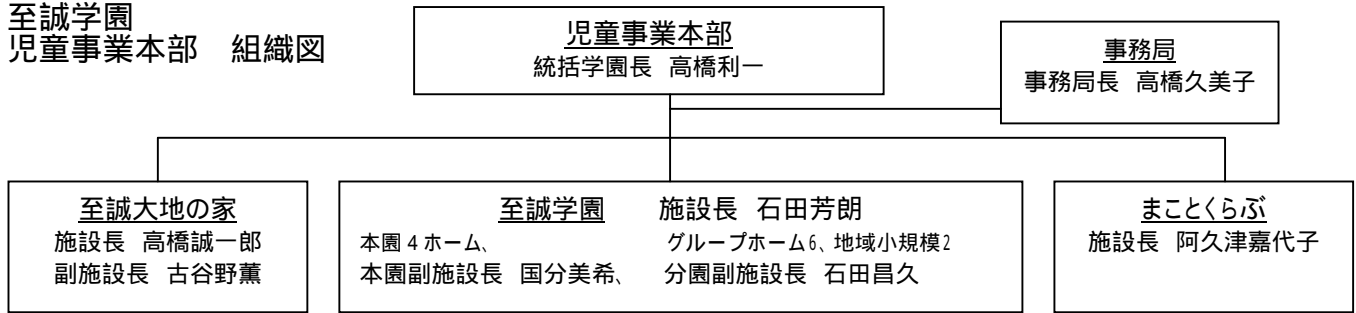
背後にある社会問題や構造上の問題などが、問題とニーズ、そのおかれている環境に含まれているわけで、こうした社会情勢に順応しつつ、環境に対応できるサテライト型養護、積極的に子育てサポートを考えるソーシャルワーク、個々の教育環境の整備、リービングケアと子ども達の社会的養育を考えております。

今日、子ども達の養育は、その保護者と共に社会の責任であるとされるなかで、養育力の低下、地域差というようなものもあり、加えて子ども自身に自己責任として、その解決を迫るといったようなことも起こっているわけです。子どもの貧困、虐待などのことばの中に未来の明るい自立を考えていける施設として努力していきたいと思っております。今後ともご支援をお願い申し上げます。

（高橋利一 統括学園長）

## 2010年度に向けて これからの至誠学園

至誠学園  
児童事業本部 組織図



### 至誠学園 今年度を振り返って

ようやく頬打つ風にも春の香りが感じられるようになってまいりました。新たな年度を迎えるにあたり、平成 21 年度を振り返りつつ、新たな希望を見出していきたいと思います。

国および東京都の新たな制度の適用により、都内の多くの児童養護施設で変化が求められ、その対応に法人、施設をあげて取り組みをしてきた年度であったように思います。至誠大地の家の開設にあたっては、様々な生みの苦しみも伴いましたが、それにも増して、二つの施設が時代の要請を受けながら、何より子どもたちの笑顔を取り戻すための最後の砦としての期待に応えていかなければならない存在であるという意識を強くもたせてくれるスタートとなりました。子どもたちの生活は、学園の大きな変化の波を受けながらも比較的安定した一年を過ごすことができたのではないかと思います。

グループホームが 8 箇所になりました。

82 名定員中 48 名がグループホームに在籍  
東京都専門機能強化型施設として

専門的なケアを必要とする子ども達のために施設機能を大幅強化した東京都の大きな施策の変革です。至誠学園の 5 年間の試行的実施を踏まえてこの施策につながりました。

### 至誠学園の子どもたちとともに 一去年度に向けて

さて、いよいよ平成 22 年度を迎えることとなりました。よく見えぬ社会という大海原に半ば無理してでも自立していく子どもたちの背中を見送った瞳の乾かないうちに、新たな生活に希望を求めてくる子どもたちを受け入れるために、頭も環境も切り替えながら準備をすすめゆく今日この頃であります。

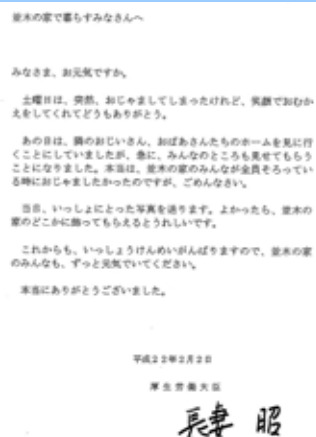
今年度もやはり、法人の理念である「まことのこころ」のもと、子どもたちの権利擁護を基軸にして、より豊かな生活環境の創造、内在する一人ひとりの個性を伸ばし、力を身に付け、自立に向けた生活を営めるよう支援していきたいと思えます。

運営面では、苦しい財政状況の改善はもとよりではありませんが、養育者である職員の養成、人材育成を最重要目標として取り組んでいきたいと考えています。また、センチュリー計画もいよいよ最終段階となり、大規模な園庭整備事業を計画します。

子どもたちもそれぞれがそれぞれのフィールドで活躍しました。学習に頑張りを見せた子ども、スポーツで活躍した子ども、学校で頑張った子ども、アルバイトに頑張った子どもなど、82 名、すべての子どもが主役となりえた年であったであろうことを願います。そしてそのガンバリを支えてきたスタッフもやはり頑張ってきた一年でありました。

(石田芳朗 至誠学園施設長)

### 長妻厚生労働大臣がグループホーム並木の家へ



国分寺市の高齢施設ミナを 1 月 30 日に訪問した長妻厚生労働大臣は、同じ敷地にある子どものグループホーム並木の家に立ち寄りられました。

土曜日ということもあり、くつろいでいる子ども達と、学校のことやホームのことなど歓談しました。

### グループホームの周辺地域の方々の声より

- ・子どもの声が聞こえてくるので、地域が活性化する。
- ・昼間の時間、グループホームに人(職員、子ども)がいるので、安心です。(一人暮らしの高齢者の方)
- ・お友だちの家としてのグループホームは、子どもたちの居場所になっている。親が安心していられる。ミニ学童クラブとしての機能がある。

(至誠学園グループホーム研究会より)

### 苦情解決委員会の活動報告

今年度の委員会としての活動は 0 件でした。学園の様々な行事の折に、子どもたちの生活の様子をごらんいただき、子どもたちの成長を見守ってくださっています。木津川迪治さん(弁護士) 名取種子さん(立川市人権擁護委員) 石川親治さん(元立川市立第三中学校教諭) の皆様です。

(石田芳朗 至誠学園施設長)

# 今年度から来年へ「至誠大地の家」の子どもたち・まことくらぶ

## 年末年始の大地の家

クリスマスは、大地のホールで20人の子ども達と一緒に御食事会をしました。その後、近くの教会のミサにいき、讃美歌を歌い教会の皆さんと和やかなクリスマスイブを過ごすことができました。

年末は、もちつきや年越し手打ちうどん作りをして、2009年を無事に終えることができました。

お正月は、至誠学園の新年式に参加して、獅子舞に頭をかんでもらったり、皆で近くの神社へ初詣に行きました。大地の家の生活が始まって数カ月、少しずつ慣れてきて、楽しい年末年始でした。



本格足ぶみで、うどん作りに挑戦。お餅もじょうずにつけたかな。



**大地の家**  
**季節のごちそう いただきます**



## まことくらぶの一年

早いもので、まもなく平成21年度も終わろうとしています。今年は何んといっても10月に新体系に移行したことが、施設にとってはとても大きな変化でした。そして今は会員と保護者の方において頂き面談をおこなっています。おおよそ1時間ほど運営や支援計画についてお話をさせて頂いています。この面談でお話したことや、頂いたご意見は今後の支援に取り入れて参ります。

まことくらぶのお店、ショップ「リーフ」も1年半がたち、先日もクッキー工房の大きな窓の前で作業をする会員の姿をみて、クッキーを買いに来て下さったお客様がいらっしゃいました。

会員の皆さんの素敵な笑顔と元気な挨拶で、ひとりでも多くのお客様に来て頂けるショップにし、売上をのばし、会員の皆さんの工賃アップにつながる様努力していきます。



## 活動の様子 ハッピーライフ講座

まことくらぶの水曜日の午後は、スマイル水曜日ということでSSTやスポーツタイム、ミーティングなどの活動を行っています。その中で毎月第2週は「ハッピーライフ講座」を行っています。

「健康に生きる」「写真を撮ろう」「手づくり小物」「アートな世界」などの講座を会員の皆さんはスタッフと一緒に取り組みました。

自分のやりたいことを選んでやるこの講座は、皆さんの生き生きとした表情引き出し、スタッフ、会員ともに毎回楽しく取り組んでいます。この講座は来年度も引き続き行うことになりました。

(阿久津嘉代子 まことくらぶ施設長)

## 職員研修

スタッフは新卒者や他業種からの転職者、心理職、子育てのベテランなど様々な個性が集い、皆で力を合わせて開設から間もない施設を作っています。子どもに寄り添い、心に触れる関わりをしようと、日々話し合いを積み重ねています。

毎月、研修も行い、1月は至誠学園の児童精神科医の板井先生が研修を行って下さいました。子どもたちの家庭での生活などをロールプレイで確認することにより、子どもたちの親御さんへの気持ちや家族への想いなどの気持ちを考えました。

(高橋誠一郎 大地の家施設長)



子どもたちの生活から お正月の風景 春を迎える



2009-2010 勝浦・御宿年越しツアー

12/30 から 1/3 までの年末年始に、子どもたち 13 人とスタッフ 4 名が南房総の勝浦と御宿で過ごし、新しい年を迎えました。  
徳井様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(上段左から)  
 ■獅子舞  
毎年町会のおはやし会の方々が来てくださいます。  
 ■書初め  
スタッフとともに集中。  
 ■初釜  
ガールスカウト活動。お点前は高校生 A 子さん。



(下段左から)  
 ■節分  
各ホームに豆まき。  
 ■ひな祭り  
女の子たちが舞踊を披露。

三多摩児童養護 駅伝・マラソン大会



悪天候のため今年中止残念！  
オレンジのユニフォーム、ストップウォッチを揃えました。

参加の子どもは 20 名。速く走るだけでなく最後まで走りきることや諦めない気持ちの大切さも伝えていきます。「速く走れるようになった」と思えるようになってくると、子どもの顔つきが変わり、もっと頑張ろうという気持ちが伝わってきました。中学生の部員が他の部員を引っ張ってくれ、有意義な練習ができました。

高校生 M 君が表彰されました



グループホームの高校生 M 君が東京都教育委員会から表彰されました。第 6 回全日本知的障害者サッカー選手権選抜大会で優勝したことから

らでしたが、サッカーだけでなく、生活面でも後輩のとてもよいお手本になったということで、校長先生の推薦により、今回の表彰につながりました。

共同募金協会より表彰されました

学園が本部となっているボーイスカウト、ガールスカウトの長年の募金活動が表彰されました。



至誠学園のアクティビティ

生き生きと楽しんで参加しています

- ・ 絵画、創作舞踊、わらべ歌遊び、日本舞踊、ピアノバンド、小学生勉強会
- ・ 野球、ドッチボール、サッカー
- ・ 英語で遊ぼう（横田基地の方々による）
- ・ 地域活動  
ボーイスカウト、ガールスカウト
- ・ 地域のスポーツクラブへ  
サッカー、野球、新体操、柔道

## 学園を巣立つ子ども達とともに



### 成人式

今年は2名が成人式を迎えました。新たな出発を記念し、あでやかな晴れ着姿。学園長ご夫妻、スタッフのみんなでお祝いをしました。

### 今年 学園から巣立つ子ども達へ

桜の蕾みが膨らむ季節、今年も5名の青年が学園を巣立って行きます。まだまだあどけなさの残る幼児の頃に学園にやって来たA君。外泊から戻る度に、親子で泣きながら別れを惜しんでいたA君が、お父さんを見下ろすほどの立派な青年に成長しました。サッカーの代表選手に選ばれ、社会人になっても活躍が期待されています。

4名の青年達は、思春期まっただ中、中学生になってから学園にやって来ました。新たな環境での生活、居心地はどうだったのでしょうか？自分の意見さえ満足に言えなかったはにかみ屋のB子さん。泣いたり、笑ったり、怒ったり、自分の気持ちを上手く伝えられず苦労したC子さん。深い心の傷を抱えたD子さん。学園の生活に我関せずだった寡黙なE君。今、「ちょっと、うるさいですよ」「へえ、すごいね」と言われるほど、みんな「私はこう思う」と自己主張をし、将来への夢を語る逞しい姿に出会います。高校生会で発揮されたリーダーシップや優しさ、後輩達の目にしっかり焼きつきました。

施設の生活は、どんなに良い環境を整えても、家族と離れて暮らさねばならない現実、子ども達の心は押しつぶされそうになることもあります。乗り越えて行くためには、学園で過ごす時間の中で、園内外の多くの方々との出会いや体験が、子ども達の心を少し軽くし、「がんばるぞ！」の気持ちにさせたのだと思います。私達も子ども達に負けられないよう今後も精進していきたいと思います。5名の青年の旅立ち、BON VOYAGE！でありますように。

### 卒園生と遊ぼう

3月7日(日)卒園生の方々が来園し、みんなで楽しく過ごすことができました。



### 今年度の自立支援プロジェクト

ゴールドマン・サックス証券(株)様のご支援により、将来自立した社会人となることを目指す高校生のためのワークショップが、至誠大地の家のしゃらの木ホールにて、毎月1回の予定で2月28日から始まりました。衣食住に関すること、パソコン操作などこれから社会生活を営んでいく上で基本的な事柄を毎回学びます。また卒園生の体験談などもあり充実したプログラム内容です。

### その他の活動

- 高校生のヒップホップダンスクラブ  
3月20日の卒園式に向けてただ今練習中。
- エレキバンド  
毎週土曜日は卒園生、中高生のバンド活動でにぎやか。元職員や職員の協力で続いています。

### 連絡 卒園生 物故者の供養の会:

青山善光寺にて4/24 午後2時から「学園のお母さん」のご命日でもあります4月24日午後2時から青山善光寺にて供養の会を行います。参加希望者は学園へご一報下さい。

連絡先: 042-524-2601 info@shisei.org

### エンジェルサポートセンター 自立支援プログラム 修了式



里親家庭の高校生と養護施設の中高生を対象に、昨年夏から行われていた自立支援プログラムの修了式が、2/7 オリンピックセンターで行われました。

修了証と自立のための生活用品が進呈されました。

## 後援会からのお知らせ

### 平成21年度役員会

日時： 平成22年2月6日(土)  
午後5時開会 / 午後8時閉会  
場所： 新宿 玄海本店  
出席者： 理事 佐々木信孝(会長代行)  
浅見義明、高橋利一、西村よね、  
小川庄二、名取種子、矢野雄一  
会計 渡辺道子  
事務局 高橋久美子、風間俊秀  
施設長 石田芳朗(至誠学園)  
阿久津嘉代子(まことくらぶ)

開会挨拶が佐々木会長代行よりなされ、平素のご支援に感謝の意が示されました。

司会進行を高橋利一学園長が務め、矢野理事の経営されている玄海を、ご好意で本日の会場にとのご紹介がありました。矢野理事よりご挨拶があり、他の出席の役員の方々からもご挨拶がありました。

#### 議事

1. 学園の現況報告と昨年10月に開設された至誠大地の家の運営状況の報告がありました。

学園長より

渡辺会計より平成22年1月31日現在の入金状況の報告がありました。

1月末まで1,723,530円  
266名の方々より

2. 昨年の秋の台風により駐車中の車に大木が倒れ、大破して修理不能になったトヨタハイエースの新規購入費用215万円の車両保険115万円を引いた残金100万円を21年度の後援会より寄附として学園に助成いただき、購入したい説明がありました。(学園長より  
全員一致で承認されました。

3. 国の財政状況により運営資金の醸成が急務となりました。特に重篤なケースが多くなっているなかで、一人ひとりの子ども達の自立支援と高校、大学進学および生活環境を考えると資金が必要です。学園長より  
後援会会員数の増強を目指して活動していくことになりました。

至誠学園施設長、まことくらぶ施設長より各々の施設の現況の報告がありました。

矢野理事からの提案でまことくらぶにて蕎麦を育てて販売をしたらどうかのご提案があり、ご出席の皆様からも様々なご意見を伺うことができ、とてもなごやかな会となり、8時に閉会となりました。

(役員会議事録より)



購入した新車のトヨタハイエース 9人乗り  
学園のロゴ、(贈)至誠学園後援会の文字入り

### 三田鶴吉後援会会長のご様子

かねてからご療養中の三田会長様を佐々木会長代行と高橋学園長がご自宅に伺いました。

後援会の状況を報告し、お話すると、会長はお元気なご様子ではありましたが、「まだ十分な体調ではありませんが、後援会にもぜひ出席したい」とお話をされておりました。

1日も早いご快復をお祈り申し上げます。

(会長代行 佐々木信孝)

毎年、多くの方々から後援会費をご送金いただき心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、どうぞ宜しくお願いいたします。

(至誠学園後援会会長 三田鶴吉)

また、新規のご入会も随時受け付けております。子どもたちのために、あたたかいご支援いただけますようご入会をお願いいたします。すでにご入金いただいている方には、重ねてのご案内を失礼いたします

会費の納入は下記の口座にて承ります。

<郵便振替口座>

口座番号 00140-2-356681

口座名 至誠学園後援会

<銀行口座>

中央三井信託銀行立川支店

口座番号 普通 7902588

口座名 至誠学園後援会

<連絡先>

至誠学園後援会事務局

立川市錦町6-26-15(至誠学園) TEL 042-524-2601

至誠ホームとの合同コンサート



至誠ホームに入所の方のご縁で、世界を舞台に活躍しているバイオリニスト劉薇(リュウエイ)さんのコンサートが2月12日に実現しました。ご厚意により2つのステージ(第一部至誠ホーム、第2部至誠学園)で演奏していただきました。

至誠ホームでは会場の皆さんとの「ふるさと」の大合唱。学園でもそのエネルギッシュなすばらしい音色に、子ども達はじつと静かに聞き入っていました。

初めて聞くお父様の劉暁冬(リュウショウドン)氏による二胡の演奏にも興味津々の子ども達でした。

高橋利一統括学園長近況



3月2日のお誕生日に「一緒に時を刻んでいきましょう」と100数名の子どもたちとスタッフの笑顔がちりばめられている手作りの時計のプレゼントをもらいました。あらためでお礼申し上げます。また、昨年12月には、長年の保護司活動に対して法務大臣から表彰を受けました。

園庭で至誠大地の家の幼い子ども達が遊んでいる光景を見ると、心がなごみます。学園の年長の子ども達とのやり取りもほほえましいです。(高橋利一 統括学園長)

日本児童養護実践学会に参加しました

2月14日に目白大学で行われた第2回研究大会で、学園の児童精神科医の板井貴宏先生(精神障害を患った母親とその母親から虐待を受けた男児の母子精神科入院治療)、若松亜希子臨床心理士(児童養護施設の小規模化における心理臨床活動)、兎澤聖児童指導員(児童養護施設における職員の自己覚知)が分科会でそれぞれのテーマで発表しました。大会テーマは「児童養護施設とアドヴォカシ」でした。

これからの主な行事予定

- 3/14 地域との防災訓練
- 3/15~17 新任職員研修
- 3/20 至誠学園卒園式
- 3/27 法人理事会
- 5/2 ガーデンパーティ  
第1回実行委員会も2月27日開催され、準備が始まりました。
- 6月 バザー
- 11/19 第7回児童虐待防止月間記念セミナー  
立川市民会館小ホールにて

今年度の主な職員研修

- 特別記念講演会 村瀬嘉代子先生  
2回 6プロ学習会、大地の家開設記念研修会
- 金子 保先生(淑徳大学)  
年間7回 新任、2年目の職員向け  
テーマ「至誠学舎の精神とケアワーク」
- 西澤 哲先生(山梨県立大学)  
年間9回 テーマ「入所児童の心理理解と援助」
- 皆川邦直先生(法政大学)  
年間10回 リーダー・主任職員向け  
テーマ「困難事例ケースカンファレンス」
- 小野純平先生(法政大学)  
年間7回 テーマ「知能検査と学習への支援」
- 板井貴宏先生(児童精神科医)  
「気持ちを感じる、相手の立場に立ってみる」
- 高橋利一 統括学園長  
社会的養護の制度・政策について
- 職員施設見学  
京都 平安徳義会養護園、群馬 子持山学園  
広島新生学園、青森 あけぼの学園、  
栃木 イースターヴィレッジ  
\*施設の理念や運営など説明していただきました。  
各施設の施設長、職員の皆様ありがとうございました。

編集後記

ご招待やご寄付、ボランティアとして、たくさんの皆様のご支援ご協力により、子どもたちの生活が豊かに彩られ、生活が充実したものになりました。一つ一つの経験が子どもたちの体の一部で統合され、新たな希望や湧き出る力となってくれるように導いていきたいとスタッフ一同考えています。どうもありがとうございました。

うぐいすがさえずり、春の訪れを感じさせます。根川緑道のお花見にもそろそろいい季節になりました。どうぞ皆様お越しく下さい。(広報委員一同)